

美

日大新聞

11月29日
土曜日

記念号外



先日、日々練習を行う札幌日本大学高校の吹奏楽部を取材した。私達がNinkと呼ばれるホールに入るとすぐに、美しいメロディが耳に伝わってきた。発表会が近づいてい



「宝島」を練習する吹奏楽部

るせい、それぞれの想いが入り混じった音色のようにも聞こえる。そこで私は一際目立つある一人の男子生徒に注目し、取材してみた。以下はそのインタビューの内容である。まず初めにいつからトランペットを弾いているのか聞いてみた。彼は中学1年生からと答える。次にトランペットのやりがい聞いてみた。彼は「トランペットにも目立つシーンとそうでないシーンがある。その目立つシーンでメロディを吹いているときがやりがい」と教えてくれた。そして、最も嬉しい時はいつかと尋ねてみた。そうすると彼は「自分の努力が認められた時。」と言った。確かに私

は一年半もここで過ごしているが来る日も来る日も吹奏楽部は空いている時間を見つけては練習し、放課後も夜遅くまで練習している。そして、何度も全国大会にも出場していることから、部員のモチベーションを見てレベルの高さが伺える。やはり、初めに入った時のあのメロディは努力と熱意がこもった音色であったのだ。(九笹千夢)



部員 = 細川陽向さん、部長 = 小林泰樹さん
共に2年